

篤 睦

第30号

2024(令和6年)3月31日



「あがりこ大王」

鳥海山麓北側の中島台一帯に多く見られるブナの奇形木としては最大級のものである。奇形の原因は定かではないが、付近に炭窯跡が多く見つかったことから、雪上で伐採された幹から萌芽したためとする説が有力視されていて、幹が上がったところで子に分かれていることから「あがりこ大王」と命名された。(Wikipediaより)

近況報告



社会保険
倶楽部秋田
支部会員の
諸先輩の皆
様、ご無沙
汰しております。

私は、令和五年四月から日本年金機構鷹巣年金事務所に勤務しております。

鷹巣赴任のタイミングで、倶楽部へ加入させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

光栄にも寄稿のご依頼をいただきましたが、何を書けば良いのか悩む日々、気取った事は書けないので、ここ数年の状況を書いてみることにしました。

私は、令和三年四月からの二年間を山形県鶴岡市の鶴岡年金事務所に勤務し、初めての県外勤務を経験しました。鶴岡市は、ユネスコ食文化創造都市に認定された食文化豊かな市であり、観光資源にも恵まれた魅力ある地域です。

縁あって住むことになったので、食も観光も満喫したかったのですが、新型コロナウイルス感染症が猛威を

石塚 富美子

振るっていた時期でしたので、だだちや豆を食したぐらいで、何もできないまま鶴岡を離れてしまったことが非常に残念です。

鶴岡赴任時は、見知った人が少なく不安な気持ちでしたが、振り返ると、飾ることなくありのままの自分を出すことができた二年間であったと感じています。

事業推進を職員にお願いする立場でしたが、先入観なく私を受け入れ、コロナ禍で制限のある最中、苦勞し

秋田県年金受給者協会の解散にあたって

渡邊 健一

ながらも事業実績向上で応えてくれた鶴岡年金事務所職員と一緒に過ごした二年間は貴重な時間でした。

今年度秋田県に戻り、鷹巣年金事務所勤務により、秋田県内すべての年金事務所勤務を経験することとなりました。秋田県内でも地域により特色がありますが、「年金を正しく確実に支払いする」使命を持つて事業推進することに地域差はありません。国民年金の安心を支え続けるため、微力ながらとして引き続き頑張っていきたいと思っております。

最後に、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしました。私からの近況報告とさせていただきます。



平成三十年八月、当時の事務局
長、成田
司先輩から、

病気療養のため私に年金受給者協会の仕事を引き受けてほしいとの依頼があり、この度の秋田県年金受給者協会解散に至るまでの五年八九月にわたり担当することとなりました。

協会の活動は、まずは会員相互の親睦を図ることが第一で、中央・県北・県南の県内三地区ごとに実施する研修会やグラウンド・ゴルフ大会の開催、会報の発行等。また、会員の皆さんは、県内十六支部ごとに所属し、研修会、グラウンド・ゴルフ大会、旅行や忘年会、新年会などに参加することを楽しみに交流を深めています。

また、組織を維持するために、最大の課題は会員増強対策であり、上部団体である一般社団法人全国年金受給者団体連合会と一体となつて、共通スローガン、「会員一人一人が一年に新規会員を一人獲得しよう！」を掲げて取り組んでまいりました。私が担当した当時の五年前には、秋田県の会員数は、2,200名。まずは自らの活動として、知人を中心に関員になっていただくことから始めました。私からのお願いで、ご協力くださいました倶楽部会員の皆様には、この紙面をお借りして、あらためて厚くお礼申し上げます。

これまでの秋田県年金受給者協会のあゆみを振り返ってみますと、昭和四十五年二月、前身である秋田県厚生年金受給者協会連合会として発足。その後、平成二十年六月には、秋田県年金受給者協会と名称を変更

し、今日まで五十四年にわたり運営してまいりました。

残念ながら、当県の会員数は、平成十年度における12,600名をピークに年々減少し、令和五年度には、1,000名程。全国的に見ても、この五年間で会員数が、40万人から20万人と半減しているのが現状です。言い訳になりますが、このことは行政組織改革にも関連し、かつてのような会員情報の入手が困難となったことが大きく影響しています。

このような中で、健全な事業運営のため、会員の加入促進を図ることはもとより、人件費等管理費の削減にも努めたものの、コロナ禍の中の事業活動縮小などの影響もあり、会員減少に歯止めをかけることができませんでした。また、各支部指導者の高齢化に伴う後継者問題等、どうしても会を維持することが困難となり、昨年十一月、臨時総会を開催し、解散を惜しむ声もある中、苦渋の決断でありましたが、やむを得ずこの三月をもって「解散」することが決議されました。

なお、会員としての特典を希望される方も多く、解散後、一般社団法人宮城県年金協会への継続加入の道が開かれており、私自身も会員とな

って、今しばらくの間、両県の連絡調整にあたります。

全国的にも、すでに七県が解散（東北ブロックでは青森県）しておりますが、長年にわたり、ご指導、ご支援を賜りました年金事務所様はじめ関係の皆様、また、これまで協会を支えていただいた歴代の役員の皆様には、事務局を預かった立場として誠に申し訳なく思っております。そして、会員の皆様には、今後益々のご健勝とご多幸を願うばかりです。解散という残念な結果となりましたが、今後、まずは自分の健康をキープしながら、これまでの経験を活かし、少しでも何かのお役に立てるような生き方でありたいと思っております。

《歴代会長名》

代	会長名	在任期間
初代	蓼沼銀次郎	昭和45年2月～昭和55年6月
二代	鈴木白	昭和55年7月～平成7年6月
三代	藤田禧逸	平成7年7月～平成12年3月
四代	越後屋満	平成12年4月～平成28年3月
五代	高橋重道	平成28年5月～令和6年3月

※秋田県厚生年金受給者協会連合会として昭和45年2月26日設立
平成20年6月、秋田県年金受給者協会と名称変更

テレビドラマ「ブギウギ」の思い

鈴木長八

元日早々、能登半島を襲った強い地震による破壊と被害は、なおとどまるどころを知らない。日に日に深刻さを増していく情景に心痛むばかりで無力な自分を感じるなか、NHK朝ドラ「ブギウギ」（月々金曜朝八時）を欠かさずに見ている。

主人公、福来スズ子のモデルとなったのは、激しいブギのリズムに乗せて歌って踊り戦後の日本を明るく照らしてみせた「ブギ」の女王といわれた笠置シズ子である。

昭和二十年八月十五日「玉音放送」により国民は敗戦を知った。敗戦のショックもさりながら何よりも平和の喜びが大きかった。焼け跡はすぐにヤミ市に変貌、食料不足、モノ不足で喘ぐ庶民の旺盛な生活力の現れだった。

映画、歌謡曲もほどなく復活していった。戦後の流行歌の先陣を切ったのは、並木路子が歌う「リンゴの唄」だった。ラジオから流れる明るい歌声はまさしく戦争が終わったことを実感させてくれるものだった。間もなく爆発的にヒットしたのは日劇で開催されたショーで笠置シズ子が奔放に歌った「東京ブギウギ」である。

この曲を作った服部良一は、ようやく終わった戦争。疲れきった入々のうえを暗くすさんだ調子の歌ばかり流れていた。「だからこそ、心がうきうきするものを、体が躍動するような明るい歌が流行すれば、日本人はきっと元気を取り戻すじゃないか」と、こうした思いをぶつけて作ったのがジャズ調の「東京ブギウギ」だと自伝に書いている。



♪東京ブギウギリズムウキウキ
心ズキズキウクウク
海を渡り響くは東京ブギウギ

シヅ子のバイタリティーある独特な歌い出し、体の底からつき上げるようなリズム感。どこからともなくこの曲が流れてくると、なぜか老い

「駄句駄句日記千回」



朝靄や熊も隠すかUターン
仕事納め安堵の足で理髪かな
任継の話など説く年度末

角川「俳句」誌令和五年六月号に目を通していたところ、「推薦」(「特選」に相当)に「大仙市、小野地香」の名前があった。どこかで見た名前と目を凝らしてみたが間違いない。

小野地さんはその後も何度も同誌の選に入っている。私も年に何回か投句しているが、佳作には何度か入

も若きも元氣を取り戻すと言われたものだ。明るいうリズムとメロディーは、当時の人々の心を弾ませ大いに力づけた人生応援歌であった。

かれこれ七十余年前、思春期真っ只中の思い出の一曲である。

(雄和芸術文化協会顧問)

関 徹 彌

つたが、「推薦」も「秀逸」(「入選」に相当)も一度もない。小野地さんにはまだまだ遠く及ばない。

数年前、知り合いの方の句集を読んで感動。俳句を作ってみたく、町内の句会に加えてもらった。しかし超多忙。作句の時間がない。

日記にすれば続けられるだろうと一念発起。令和三年四月一日を期してアメーバブログ(アメブロ)に写真一枚、駄句二句の「駄句駄句日記」の連載を始めた。

以来、一日も休まず一月七日で千回になった(十二日間の入院期間を除く)。われながらよく続いていると思う。

載せる句は早朝一時間のウォーキング時に撮った写真をテーマに一句雑詠一句であるが、冬期間はウォーキングができないため難儀している。

現在は秋田県俳句懇話会の監事を仰せつかっているほか、他県の俳誌にも投句している(これにはよく入選する)が、俳句は奥が深くまだまだ未熟。当面は小野地さんを目標にと思っています。

近況報告

畠 山 逸 美

小生、週に三〜四回碁を打っています。

「亭主元気で留守が良い」と、しっかりと理論武装したうえで、でかけます。

「今日は同好会の総会」と伝えると、妻はチコちゃんのように「つまらないやつだなあ」とは言わないで、「そうかい、行ってらっしゃい」と、満面笑みで送り出してくれます。

参加している新屋囲碁同好会は会員四十名弱で、職場の先輩であった方も三名いて、楽しくやっています。最後に高尚な一句を。

ストレスを囲碁で解消以後快調
人生初挑戦

よろしければグーグルやヤフーで「駄句駄句日記」と検索してみてください。

定年のない仕事に就いているため夫婦とも八十歳を過ぎてもそれなりに忙しく過ごしています。健康第一。無理をせず一日一日を大切に生きていこうと思っています。

生まれて始めて川柳なるものを作ってみました。

久方に 碁友に辛勝 笑み浮かぶ
年金で 晩酌もでき いと楽し
懐かしきOB会の酒美味し

投 稿

俳句の投稿がありましたのでご披露いたします。

山百合に心を癒やす 朝散歩
彼岸花炎の如く 群生す

トレモロは沼のさざ波冬の旅
伊 藤 善 雄

《第3回秋田県年金ポスターコンクール入賞作品》

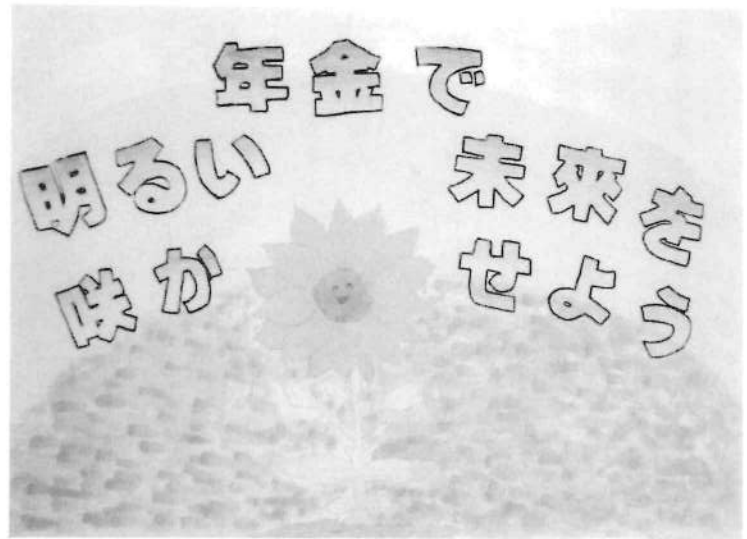
日本年金機構は、公的年金制度への理解促進と普及に向けて「地域年金展開事業」に取り組んでいます。秋田県に於いてはその事業の一環として中学生を対象に本コンクールを実施しています。今回は秋田県内9中学校24作品の応募がありました。その中で入賞した作品をご紹介します。

特別賞
(厚生労働省東北厚生局長賞)



秋田大学教育文化学部附属中学校
稲葉 理沙 さん

最優秀賞



北秋田市立鷹巣中学校
河田 陽菜 さん

優秀賞



秋田市立秋田北中学校
草薨 愛晴 さん



仙北市立角館中学校
辻 遥香 さん



仙北市立角館中学校
草薨 瑚那 さん

社会保険倶楽部からのお知らせ

令和6年度行事予定

【本 部】

- ◎常任世話人会及び通常世話人会 5月中旬
- ◎出版事業 ・会報の発行年2回
- ◎記念事業 ・古稀祝賀等
- ◎その他の事業 ・会員の慶弔等
- ★今年度、秋田県における「古稀」のお祝いは、次の方に贈呈されます。

藤原博樹様 大友則夫様
佐藤賢次様

【秋田支部】

- ◎理事会・総会 5月下旬 秋田キャッスルホテル
- ◎グラウンドゴルフ大会 (9月/予定)
- ◎ゴルフ大会 (6月・10月/予定)
- ◎研修会・新年会 (1月)
- ◎篤睦31号発行 (今年12月に会員に寄稿依頼)
- ★各行事の詳細 (中止報告を含む) については、各行事の実施時期に決定・報告させていただきます。
- ★十分なコロナ対策を講じることにより、より多くの事業を実施したいと思います。ご協力ください。

倶楽部会員数

令和6年3月1日現在

- ◎全 国
 - ・会員数 3,766名 (内名誉会員数 441名)
- ◎秋田県
 - ・会員数 83名 (内名誉会員数 7名)

訃 報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます
(前回以降に亡くなられた会員)

- 佐々木 悟様 令和5年1月16日 (享年92歳)
- 鈴木 侃市様 令和5年3月14日 (享年90歳)
- 舘岡 哲様 令和5年10月2日 (享年83歳)
- 鈴木 宏之様 令和6年1月22日 (享年88歳)



研修会・新年会を開催しました

昨年までの3年間、コロナウィルスの影響で中止しておりました「研修会・新年会」を、1月18日に会員23名の出席のもと、秋田市の「パーティーギャラリーイヤタカ」において開催しました。

外部講師による研修会を行い、引き続き新年会を開催しました。慎野支部長からの挨拶のあと、秋田年金事務所長の佐藤進氏から「日本年金機構の現況」等について説明していただきました。

懇親会(新年会)では、久しぶりの再会に終始笑顔と笑いの絶えない和気あいあいとした懇談の中で、盛会のうちに終了することができました。

あとがき

- ・令和5年7月15日以降、数度にわたる大雨による水害が発生しました。当会員5名も床上・床下浸水しました。また、クマの市街地への出没が相次ぎ、多数の負傷者が発生しました。冬眠しないクマがいるかもと発表がされており、冬になってもなお出没情報がありました。山菜採りに出かける際は特にお気をつけください。
- ・発刊に当たり寄稿をお願いしましたところ、数名の方からご寄稿いただきありがとうございました。篤睦は会員の現状をお知らせするとともに絆を保つ重要なアイテムですので、今後とも定期発行に努めて参ります。
- ・研修会や総会につきましては、新型コロナの影響が収まりつつあり開催することができました。これらの行事は現況の確認や会員の皆様の近況を知る良い機会であり、できる限り開催したいと考えております。今後の状況次第によりますが、各行事の開催が決まりましたらご参加のほどよろしく願いいたします。

(茂内記)